

建築文化賞

景観に配慮した建築物

建築主：M.O氏 Y.T氏

設計：大成建設株式会社 一級建築士事務所

施工：大成建設株式会社 千葉支店

所在地：流山市

桜が目印、フロントヤードが街にゆとりをつくる

AIR HUT (えあ はっと)



診療所エントランス側からの外観

宅地整備が整わぬまま広がった住宅地の街路は建て込んで分かりにくい。ようやく見つけたこの家の目印は5差路の角地に残された桜の大樹と、街路にゆとりを提供するフロントヤードの広がりだ。

敷地は391.66㎡、建坪257.59㎡、3階建ての建物の1階は診療所で、2、3階は一階裏手に入り口をもつ2世帯3世代住宅である。診療所入り口のあるフロントヤードは救急車停車スペースかねて面積を割いているので、建物は敷地境界ぎりぎりだ。しかし東面道路沿いの側面は、診療所待合室の採光と修景をかねたフェンスと植栽が巧みに配慮され、あわせて道路側からも双方見え隠れの空間と緑が好感を与えている。

建物内部は、職住分離と動線の便宜性から2箇所の階段とエレベーターも備えており、2世帯のリビングやファミリールームなどを共有空間として広くとることで、快適な家族交流をうながす生活風景をうまく演出している。

施主にとって住宅への要望は、なにより日常生活での使い勝手にある。そして住み心地だ。使い勝手は家族間の課題だが、住み心地は快適なコミュニティライフへの協力姿勢が必要だ。それは近隣建物相互のより

よい調和をはかる具体的な建築設計に示されることが望ましい。

快適で美しい街づくりへの意識向上とともに、ニュータウンでは「デザインガイド」が一般化され、既存住宅地でも特区単位で建築物の「デザイン協定」の取り組みが始まりだしているが、この家の良質な設計に特記されてよい景観への配慮は、ガイドに先立つ街づくり参加意思を示す好例モデルとして評価された(野口瑠璃)。



1階 診療所待合室



連続する緑を取り込んだファサード

(撮影/三輪晃久写真研究所)